

Q A<sup>3</sup> Kyushu University  
 R C Advanced Asian Archaeological Research Center  
**NEWSLETTER** No. 6  
 2015. Jul.  
 九州大学アジア埋蔵文化財研究センター ニュースレター



遺跡の宝庫・九大キャンパスの埋蔵文化財を究め活かす。

文化財調査法開発部門  
 総合研究博物館 岩永省三

文化財調査法開発部門の重要な任務の一つが、九大学内埋蔵文化財の保存活用研究である。九大キャンパスはまさに遺跡の宝庫である。箱崎地区には箱崎遺跡群と元寇防塁跡がある。伊都地区では開発に伴う発掘調査で弥生時代の大規模祭祀遺跡、石ヶ原古墳などの前方後円墳、石ヶ元古墳群、元岡古墳群（G6号墳で金象嵌鉄剣出土）、奈良時代の大規模製鉄炉群、平安時代の瓦窯などが発見されている。筑紫地区では、1978～98年の発掘調査によって弥生時代の祭祀遺構、古墳時代の工房跡、古代の官道・寺院跡など多様な遺跡が確認された。農学部付属の原町農場には磐井の乱とも関係する鶴見山古墳があり古代の糟屋評衙・郡衙が発見され、篠栗演習林には鬼ヶ浦横穴墓など縄文時代～古墳時代に及ぶ遺跡群があり、彦山生物学実験施設には英彦山座主院下屋敷跡がある。理学部付属天草臨海実験所には島原・天草の乱とも関係する富岡城跡がある。いずれも第一級の遺跡と言ってよい。全国的に見てもこれだけ重要遺跡を抱え込んだ大学がほかにあるだろうか。これを九大の誇る遺産と言わずして何を言えよう。

これら遺跡群の学術的価値を研究・解明するとともに、それを基礎として、遺跡を保存して未来に継承するために、学術的価値が表現できるように整備し、九大の教育・研究や社会貢献に活用するための各種方策を具体的に研究していくのも、当センターの任務である。そしてそれらの成果を、当センター教員が構成員となっている組織、全学委員会であるキャンパス計画及び施設管理委員会の文化財WG、埋蔵文化

財調査委員会の埋蔵文化財検討WGの活動に反映させ、全学的合意の下で具体化するための基礎としなければならない。

この目的のために、文化財調査法開発部門の教員は、学内の教育・研究環境整備のための各種建設工事（規模大小不問）やキャンパス移転、進行中の発掘調査、今後予定の発掘調査、史跡指定に向けての動向などの情報を収集し、九大各部局の担当者と協議するとともに、地元自治体の関係部局とも協力して保存・活用の方策を検討している。もちろん頻繁にそれら現場を踏査し、遺跡群の各種遺構や出土遺物の情報収集・調査研究にも余念がない。上記の各遺跡や出土品の研究成果は、このニュースで順次ご紹介していきますので、乞うご期待。



金象嵌鉄剣が出土した元岡古墳群G6号墳石室の現地確認。田中良之前センター長（右）と筆者。



近世城郭を思わせる英彦山座主院下屋敷跡の石垣（農学部・彦山生物学実験施設）。巨木の根が石垣を崩しつつある。



古代の糟屋評衙・郡衙遺跡が出現（農学部・原町農場）。発掘調査を担当した粕屋町教委主催の現説には見学者が鈴なり。



2015年5月11日から9月上旬まで、伊都キャンパス椎木講堂1Fギャラリーにて「奴国の南」展が開催されています。今回の「奴国の南」展は、平成20年1月に太宰府の九州国立博物館で開催された同名の展示を、一部リニューアルし、最新の研究成果も加えて展示しています。ご存じのように九州大学は箱崎キャンパスや伊都キャンパスだけでなく、全国各地に大学用地を所有しており、それぞれのキャンパスの地下には埋蔵文化財が眠っています。この「奴国の南」展では九州大学筑紫キャンパスの地下に広がる埋蔵文化財を中心に、発掘された資料の学術的価値を展示公開しています。筑紫キャンパスは米軍キャンプ返還に伴い、跡地利用の一環として九州大学の新たなキャンパスに加わりました。そこで大学キャンパスとして利用する前に、地下に眠る埋蔵文化財の発掘調査を

昭和53年度から平成10年度まで実施しました。「奴国」は著名な『魏志倭人伝』の中に記述され、筑紫キャンパスの北側に、奴国の中心地であったとされる春日市須玖岡本遺跡群が所在しており、このような展示タイトルにしています。

今回展示しているのは、その発掘調査で出土した紀元前4世紀頃から8世紀前後にかけての弥生土器や土師器、須恵器、青銅器や鉄器などであり、多種多様な出土品をご覧になることができます。また、それぞれの出土品に関する解説と、アジア埋蔵文化財研究センターを中心に実施した研究成果をパネルにしており、本センターの活動の一端もご理解いただけるかと思えます。夏休み期間も開催しておりますので、皆様のご来場をお願いいたします。



「奴国の南」展の展示の様子。紀元前4世紀頃から8世紀前後にかけての多様な出土品を展示している。



アジア埋蔵文化財研究センターを中心とした研究グループによる最新の研究成果をパネルで紹介している。



「奴国の南」展の展示品の例。  
(左) 出土した須恵器および木製の須恵器作成道具と、それらから復元された須恵器作成技術。  
(右) 多量の祭祀土器とともに出土した甕棺。これと同時期の一般的な甕棺と異なり、胴部が丸く、口縁部が強く締まるという違いが認められる。

【センター活動報告】

2015年度前期基幹教育総合科目「アジア埋蔵文化財学」を開講。

2015年7月24日 アジア埋蔵文化財研究センター第7回研究会  
講演題目:「甕棺の地域性の発現様態の基本構造とネットワーク」  
講演者: 溝口孝司(比較社会文化研究院)

2015年5月11日～9月上旬 「奴国の南」展 開催。  
場所: 九州大学伊都キャンパス椎木講堂1Fギャラリー  
開場時間: 9:00～17:00  
※休み: 土曜・日曜・祝日, その他大学が定める休日

九州大学アジア埋蔵文化財研究センター  
ニュースレター No. 6

発行: 〒819-0395 福岡市西区元岡744  
九州大学アジア埋蔵文化財研究センター  
編集: 足立 達朗  
発行日: 2015年7月31日  
TEL: 092-802-5661/FAX: 092-802-5662  
E-mail: qa3rc@scs.kyushu-u.ac.jp  
ホームページ <http://scs.kyushu-u.ac.jp/qa3rc/>